

## 麻疹は死ぬ病気 その2

2007.05.29

ゴールデンウィーク後の懸念された麻疹の流行は、函館地区では現在のところ公式にわかっているのは3名だけと厳しい流行には至ってはいないようです。

高校や大学での流行、大学の休講が世間をにぎわしておりますが、千葉県では未接種未罹患児が多い小学校で学校閉鎖になったという情報が流れてきました。

函館地区の流行を今一度見てみますと、私のところの手元に残っている資料で見ると、平成3年 約130名、平成4年 約160名、平成5年 約100名、平成8年 約100名、平成12年 約100名でその後は目立った流行はありません。現在、小学校1年生は平成12年生まれですので、それ以降生まれた子ども達は麻疹のウイルスにほとんどさらされたことがないといえます。

その昔、麻疹のワクチンの効果は一生続くものと思われていましたが、それはワクチンをした後に麻疹のウイルスに自然に接触してワクチンの効果をより強いものにするという、ある意味麻疹ワクチンを何度もしている状態を無理やり自然の中で作らされていたためです。

麻疹の流行がほとんどなくなった今では、ワクチンをしっかりそれも2度受けないと麻疹に対する抵抗力を保つことが出来なくなっています。お子さんの母子手帳をぜひ確かめてください。

先日、園医をしている幼稚園の健診に行ってきました。最後に園長先生に「麻疹・風疹ワクチンの2回目の接種の終わっていないお子さんに、ぜひ早くワクチンを受けるように呼びかけてほしい」とお願いしたところ、さっそく多くの子どもたちがワクチンを受けに来てくれました。こんなすばらしいことは他にありません。

21世紀になっても、病気は罹ったほうが良いと思っている読者の方がいらっしゃいましたら、ぜひその考えは今日限りで捨ててください。アデノウイルスでもロタウイルスでも、人の命を奪うことがあります。ましてや合併症が多く知られている麻疹では簡単に人から命を奪います。あなたはそれでも、子どもに麻疹のワクチンをすることに躊躇しますか？